

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 13 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23320172

研究課題名(和文) 東京湾西岸地域における旧帝国海軍軍事遺跡の基礎的研究

研究課題名(英文) Basic study of the Imperial Navy military remains of the Asia-Pacific war in the west coast area of Tokyo bay

研究代表者

安藤 広道 (ANDO, Hiromichi)

慶應義塾大学・文学部・教授

研究者番号：80311158

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,400,000円、(間接経費) 3,720,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、東京湾西岸地域の軍事遺跡の現況、および調査・研究の現状を把握したうえで、今後の軍事遺跡の調査・研究・活用のための基盤整備を行うことである。具体的には、対象地域の軍事遺跡のデータベースを作成するとともに、慶應義塾大学日吉キャンパス一帯の軍事遺跡群を対象として、現存するものについては測量を中心とする現地調査を、破壊されたりアクセス不可能な遺跡は過去の記録の集成を実施した。併せて、当時のことを知る方々へのインタビュー及び、過去のインタビューの記録の調査も進めた。調査成果は多岐に及んだが、それらの一端を『日吉キャンパス一帯の戦争遺跡の研究』として刊行した。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study is to form a basic ground for future historical studies and public history practices of the Imperial Navy military remains of the Asia-Pacific War in the west coast area of Tokyo bay, by making clear the achievements of past studies and researching the present conditions of these remains.

Specifically, we made the database of military remains in the area. And after having limited the study area into around the Keio university Hiyoshi campus, we researched and measured the remains we can access now, and we collected the records of the past researches about the already destroyed or inaccessible part of them. In addition we did interviews with some informants who know the Imperial Navy activities in the campus, and collected the records of the past interviews. We had many results in this study, so we published some of them in the volume entitled 'Studies of the war related sites of the Asia-Pacific War around the Keio university Hiyoshi campus' in March, 2014.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：軍事遺跡 戦争遺跡 アジア太平洋戦争 帝国海軍 地下壕 近現代考古学 文献史学 オーラルヒストリー

1. 研究開始当初の背景

アジア太平洋戦争終結から約70年を経た今日、戦争体験者の減少とともに、アジア太平洋戦争史の研究・教育の資料として、また歴史を社会と結びつける歴史実践の場として、軍事遺跡(戦争遺跡)に対する関心が高まっている。一方で、軍事遺跡の保存と活用をめぐっては、国や自治体による文化財としての評価、及び保護の枠組みが依然確立していないこともあり、重要な遺跡の破壊が進行しているだけでなく、その記録保存すら十分にできない状態が続いている。

こうした状況の背景にはさまざまな要因が絡んでいるが、軍事遺跡の学術的な調査・研究が必ずしも進んでおらず、それ故に遺跡の研究・教育上の価値をめぐり議論が深まっていない点に大きな問題があることは間違いない。また、これまでの軍事遺跡の調査・研究が、民間主導でなされることが多かったために、その成果の公開やデータの保存・継承に課題を残すことになり、この点も軍事遺跡の価値の議論が深まらなかった理由の一つになっていると考えられる。

そうしたなかで、軍事遺跡をめぐり社会の関心の高まりに応え、その文化財としての価値の議論を深めていくためには、大学や博物館等の研究者が積極的に軍事遺跡の調査・研究に取り組むことが必要である。そして、これまでの調査・研究を支えてきた民間の研究者と連携しつつ、今後の軍事遺跡をめぐり研究・教育の基盤整備を進めていかなければならない。

2. 研究の目的

本研究は、以上のようなアジア太平洋戦争期の軍事遺跡をめぐり現状に鑑み、今後の軍事遺跡の調査・研究、及び保護・活用のための基盤整備を目的とする。

具体的には、旧帝国海軍の軍事遺跡が密集する東京湾西岸地域を対象に、その調査・研究の現状を把握するとともに、モデルケースとして神奈川県横浜市北部の慶應義塾大学日吉キャンパス一帯の軍事遺跡群を選び、過去の調査・研究の成果をまとめたうえで、考古学、自然地理学、文献史学、オーラル・ヒストリーなどの多角的な調査・研究を実施することにした。

3. 研究の方法

本研究は3ヶ年で実施した。研究の具体的な内容的としては、(1)東京湾西岸地域一帯における旧帝国海軍関連の軍事遺跡のデータベース作成、(2)慶應義塾大学日吉キャンパス一帯の軍事遺跡に関する考古学的調査、(3)日吉キャンパス一帯の軍事遺跡に関する歴史学的調査、(4)調査成果の保管、活用、公開に関する調査と検討、(5)研究成果報告書の刊行・配布、の5つに大きく分けられる。

このうち、(1)のデータベース作成では、発掘調査報告書に記載されたアジア太平洋

戦争期の遺構の記録を収集し、現在も見ることのできる幾つかの遺跡については、現況調査を行うことにした。

(2)の考古学的調査では、日吉キャンパス一帯の軍事遺跡をめぐる過去の調査記録の収集と整理、日吉キャンパス内に現存する地下壕のレーザー測量、未発見の地下壕の探索、現存する建物内の軍事活動痕跡の調査を行うことにした。

(3)の歴史学的調査では、軍事施設関係の写真や図面、地図等の画像データの収集を徹底して進めるとともに、過去に実施された軍事施設勤務経験者を中心とするインタビューの映像・音声・文字記録の悉皆的調査を進めることにした。また、大戦時の日吉のことをご存知の方へのインタビューも新たに実施し、記録化することにした。

(4)に関しては、実際に軍事遺跡の保存・活用を行っている事例の調査、及び調査成果の公開時における個人情報の取り扱いをめぐり検討を行うことにした。

(5)としては、研究の最終年度に、研究成果をまとめた報告書を刊行し、全国の研究機関、自治体に広く配布することにした。

4. 研究成果

(1)については、東京湾西岸地域の遺跡発掘調査報告書に記載された遺構・遺物のデータ収集をほぼ完了させることができた。

(2)については、日吉キャンパス内の地上で確認できる全ての遺構の測量を完了したほか、入坑可能な連合艦隊司令部地下壕の内部については、3次元レーザースキャナーによる詳細なデータを得ることができた。また、新たに発見できた地下壕についても測量を行った。これらの成果により、日吉キャンパス内の地下壕群について、ほぼ正確な測量図を作成できたのは大きな成果となった。



なお、過去の調査が行われた艦政本部地下壕と矢上台の小規模地下壕については、調査記録と出土遺物の整理を行い、正式報告としてまとめることができた。

(3)としては、まず三田キャンパス、日吉キャンパスの事務部門の倉庫の調査を徹底して行い、過去の地下壕内の実測図や入坑の記録を収集し、全てをデジタル化まで完了させた。また、過去に地下壕の調査に関わった業者・個人に写真や記録の提供をお願いし、これらも全てデジタル化した。

オーラル・ヒストリー的な調査としては、過去のインタビューや手記の記録の収集を行い、それぞれデジタル化を行った。併せて地下壕勤務経験者や近隣住民のインタビューを実施した。

また、日吉キャンパスと同様、大戦末期に海軍が移転してきた大倉精神文化研究所の歴史学的調査を行い、これまでの研究成果をまとめるとともに、研究所に残された資料の調査を行った。

(4)では、日吉キャンパス一帯と同様に海軍関係の軍事遺跡が集中的に存在する千葉県館山市や神奈川県横須賀市における、軍事遺跡の保存と活用の方法を調査した。

個人情報の取り扱いをめぐっては、過去の調査における個人名の扱いの問題点と、今後の公開にあたっての留意点を整理し、報告書においては、その方針に則った記載を行った。

(5)最終年度となる25年度に、以上の調査・研究成果をまとめる作業を行い、発表が可能となった成果の一部を、『日吉キャンパス一帯の戦争遺跡の研究』(A4版、カラー、124頁)として刊行し、全国の研究機関、教育委員会、図書館等に配布した。

この報告書を刊行し、広く配布したことにより、本研究の目的である、軍事遺跡の調査・研究、保護・活用のための基盤整備の一端は達成できたと考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5件)

松原彰子、東京湾沿岸に発達する浜堤列平野 - 館山低地と小櫃川下流低地を例にして -、慶應義塾大学日吉紀要 社会科学、査読無、第23号、2013、pp.1-14

都倉武之、日吉寄宿舍調査報告、福沢研究センター通信、査読無、第17号、2012、pp.7-8

松原彰子、東京湾西岸地域の地形 東京都東部地域と鶴見川流域を例にして、慶應義塾大学日吉紀要 社会科学、査読無、第22号、2012、pp.1-12

安藤広道、日吉台・矢上台遺跡群について、三色旗、査読無、第769号、2012、pp.33-44

安藤広道、横浜市日吉台一帯の戦争遺跡、

季刊考古学、査読無、第116号、2011、pp.48-50

〔学会発表〕(計 1件)

都倉武之、近代建築の保全と活用の未来 慶應義塾日吉寄宿舍を例として、歴史を生かしたまちづくりセミナー「日吉の近代建築」フォーラム、慶應義塾大学アート・センター・横浜市都市整備局、2012年12月8日、慶應義塾大学

〔図書〕(計 1件)

安藤広道、櫻井準也、千葉毅、都倉武之、林宏美、慶應義塾大学文学部民族学考古学研究室、慶應義塾大学日吉キャンパス一帯の戦争遺跡の研究、2014、124

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

安藤 広道 (ANDO, Hiromichi)

慶應義塾大学・文学部・教授

研究者番号: 80311158

(2)研究分担者

都倉 武之 (TOKURA, Takeyuki)

慶應義塾大学・福澤研究センター・准教授

研究者番号: 10383358

松原 彰子 (MATSUBARA, Akiko)

慶應義塾大学・経済学部・教授

研究者番号: 20239065

千葉 毅 (CHIBA, Tsuyoshi)

神奈川県歴史博物館・学芸部・学芸員

研究者番号: 70589845

櫻井 準也 (SAKURAI, Jun ' ya)
尚美学園大学・総合政策学部・教授
研究者番号： 8 0 3 1 7 2 7 1

林 宏美 (HAYASHI, Hiromi)
公益財団法人大倉精神文化研究所
その他部局等・研究員
研究者番号： 5 0 7 0 9 0 6 1